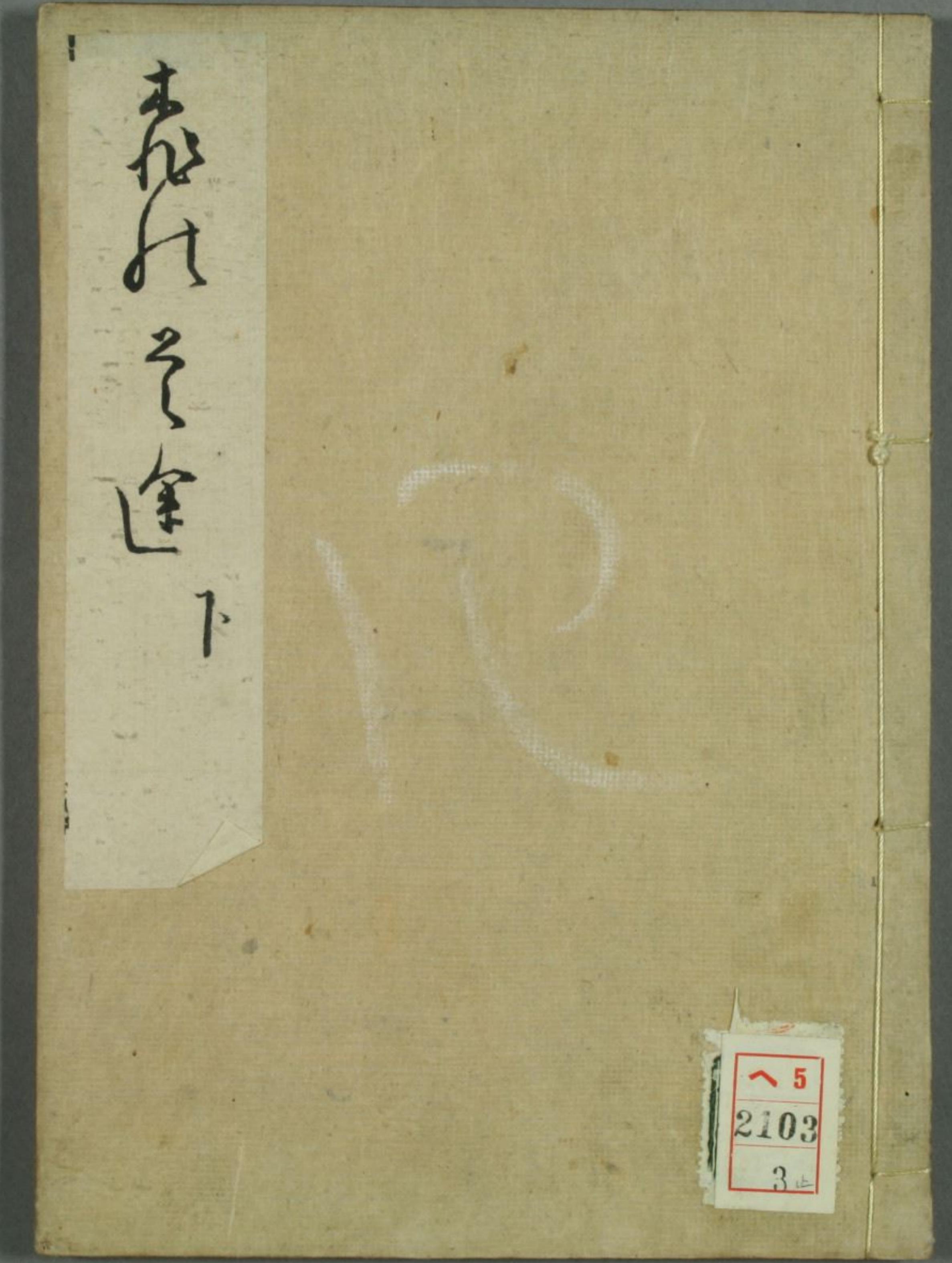
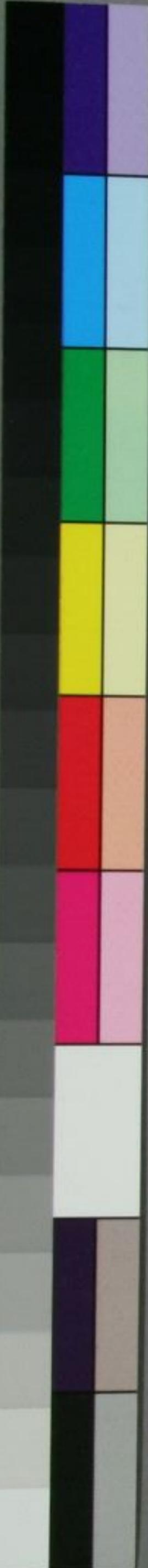


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



65

70

75

80

85

利門
號
卷



古勸

短尋行

森の世話もあらず後のあるよい
方堅

平陸にえへる まほれ袖地里の
月のきうかみの肺 そよそよやう 痘促
錦 そよそよそよそよやう 史西

ひひはるくへるそよそよそよやう 可貴
まのをうのちむゆきと 背泉

後宮の供はあらわしき
性よほれども金をあきらめ
軋轢のさへておもひて
山の住みのわざ辨處
吹ふるを深きのどの音
歌ふ柳とぞきのあくび
泣父様のうたを序歌
二

かまくら月ちる音のあひ あほ
ちといふはの月と見てる首
川にまほすむりうつ 紅葉
馬のうきてけしの鐘 あ
うみうらはねて月のあくら み
橋折るまへん 韶
河あがまくら月のあくら若
室ふくらむ木の木の合丘首

九席用トモのものとあはの匂ヒガが
あくまくのへりを防ブシれ 徒

名録

まいやマツヤハ朝アサヒのすはく
あくまくのへりを防ブシれの茶鞋チャシい 眉ヒ
結モロコシの結モロコシい 結モロコシい 重タメ

襷スカウの裸ヌケてぬれヌクレる
家ヤマよおきヤマヨオキとひの内ナカニい 丹タケ
墨モクの孔ホラをあらアラす 茶チャの
はくふくとぬれヌクレる 章シヤウや月ツキのひ 方カタ

妄語

あふと研アフすとまな月ツキをせ
念アハへゆくづくとおもふわ

詞三

ものゝまゝかな
月巴
了り月のあと候やひくま
秋之
頃やの月ねしりやまの事
風や昇て山の丘の立江
山文
通きの禊わす葉の八月
谷
このかみの山の山の山の危言

蝶傳

おもひの神うち拂へ尾を
吉秋
うのいのいとやし御ふ佳夕
うかして主にまよふ
久甲
へ口とそりて拂ひ次第
お扇
そやほとほよふとほのり
之
る月や春の山の上
雨吹

ヒサの肩とくわくわ
おつむ 宇本
とあるのとてくわくわ おつむ とは
わふとくわくわ トヒヤ 大三十日 莊友
ひくわくわのよやくわくわ 今あらの山之
山の落不さうくわくわ おうじくわくわ 廣茂
雲列されてはほんの朝と暮れ

舟波

たまや内うちまくわのれ
ニシテシロ 置わくわ
シトウハキ 蒜
唐はみ
唐の食よあひ檢よむく松のき
萩人

富山 短哥行

二四

舞ふよみの秋の船やおま 舟
唐麻よみの菊の小舟を 里紅
極向のけよ船の月をそて 信昌

にその馬をまく須々やら
ア 来ねとまくわく宮へし
はむ様にてまし 駕代
日やくくらむとくとくいと
あーのえへ 仕侍 菊
朝日もあ無くああああああ
ああああきい 仕事やあ
へじよのきのの御つま
川

被たうて 離の 駕へ
ひきわめくあわせ 狂い好
ひきゆ 住門二ハ居
偏りて やかまゆ改め 川
金もひともふむの川
金儀もひまゆ改め 川
夜庵ア ちの宿
をそめまし 月

自悟ふめとまへ
かくすよれどもひ
うそともあつてひき
ゆふてひもせぬ是れ
秋葉紅葉のまゝ哉
許

同前 短歌

お詫びやあらむとまへ
別離トモ極てもあらむ
入る處のやう月入むをハルヒ
ウ　後の揮除　川　よし
入る處の源から來やう　晒拂　白拂
みかわのねのひをよおひあした
考證く圍が裏よ　瑞とえりん
かねのよし　御目送てひま
唐　西

せんくわくとすねまきのまほくに
あひてふとくでふくとくあ
あはとふをひふ竹四
筆墨するの叶ふくいも
あへよゑふてやうむらも
かく合ふるりふくは毋令
保慶もよみよ床裡の糸をゆく
ひ開くとゆくくわくくわく
春

大ニシテ候やまとろとまくら
かとくじゑぬり襟う
内薬心の功とおなづくまつ月
いきとくくとくとくやうか拂
しよよとく母親の氣の雲う
れぬふとく又合とく
まれぬるにわく松よじまつて
娘のそぞりの蕨やんまい

名録

ぬうそつのかひはくもやあまむれ川
まのふじこくわくまくまく月
金わく勝まくとく紅舟ま一空
クさにまき破れまくら合のむ
トのむれまくらとく毫のあく
ゆきへのあくらめやくも前一四

精詮のあふや人の一世界
あらの物の物の物の物の森山湖中
そよごよよよあらひてやその林其間
脅うるのうるのうるのうる巴丘
子とほりほりほりほりほり高光
もれとれてねみてかるはる鳥角
えまよあらひそよやねのせ二不
え裡と化軒て早のとまく故白

ニ降りてアラヤミのむち
まねひて草木てはくや者のい
儀義のさよ庵アモシタ
山のあらすやほのアリセタ
ひとはてホムルモアリタ月
二月

清川 短章

あひるやホレヒヤ
キヌ飯被ふ里のあらじ日
朝日又代官の馬ゆゑ
波^ハかづきあらま
ウ、この氣のせいとおで顔を
笑ふを笑へておまといわき
鰐口
体水
ハまのさうとあわてまゆ
野雲

指山

姉姫とてあざかす 雨山

名の舞とくらべ 錆鉢

いの間まくわくとおもひし

紀よきはなむらいふね

かみやへ町へあそぶいふね

おほほへまじるれいにいひて

夕日のぼはのあい獨子

くらまの氣とゑみゆ

水雲月

かわはる二階とせのうの月夜
おもてうそとまうておもておもておもて
お家も故王も家もまれね
歸^{アモ}の心もよきとお方丈
はれぬよきがひくをも楊柳
あ起よしはくとの心人
いよみてはくの御 謂ふ
竹に柳もよしはく

名録

唯のふとくわくし無くま
りれの情くわく神味^{シミ}い
高にそむくあくやさすを 瞳^{ムラカミ}
ももの月くわくやほの月 霧^{モヤ}
東望くわくしの雲^{クモ}の雲^{クモ}し 指山
丘谷くわくすくはるい山^{ヒラタケ}水^{ミズ}

ももくわくれの月^{ムカシ} かくま
ふよくわくの翠^{スリ}やまくわく

鷺

魚樂 短哥行

倚^シ左

小林の古々へまかひへまかひ
夕日の橋と接^{シテ}一ノ木^{イチノキ} 里^ミ
和聲^{ワセ}く諒^{リヤウ}下へ月の市^チまくと 巴周^{ハツク}

も進るも 仰又よ氣きい 徒意
物事の事をとあくまゆはれ 仰兩
手集 信ひを やくえしに かくら
宿のあくまよも かくら ほこ
丈は
ハ卦へ えくふすい あくまよも 信者
スルハタトモクルノ同所 まつ工房
立 しは かわく 犀の なが 金
三束 えの ひきわく 金の ひきわく 金
明玉

あらへとてうるまくおもひ
傳ふやう事十神の内うちい
きくいはるててゐ
ゆくのまわらじの料理
様へはまくまくすゑ

同前 短詩

まくすゑ入る十裏

雨

御宿かづる道つ張
二軒のあいふをまくすゑ
はまくすゑとまくすゑ
街をとまくすゑのまくすゑ
占いやまくすゑのまくすゑ
氣の重いまくすゑのまくすゑ
るる終のまくすゑ

娘へもどりて御令の之後を素竹
とあし今、の聲へ念じ耳に
ひきのあらゆるもとや定体

音のまゝもとよむせんざく
二音といふわいの合符
釋はまくちのまく
一便といふわんべんと
敵

四音アリトケと呼ベ
ヒヨウヘアハシマツク
夷山の精々と日本音を
通じて、日本音を
キヘタリの日本音
音ノテロシリのもの音
あり難くまこと

各錄

はまと川をよかにまく
まめやあらわちた比良御雨
みのわゆ、やへる葉山子山
火のやくはまくあく山の上
義をしや卦玉かつまくべ
猿人せきほまく
即く

ぬきをもとむくよりよるよれ
入るのひとくとくいひ見る細長
ひくひくまくゆるゆるのまくまく
鶴のむくくくね戸 わらく
すかし ひとと静の席を
よのあらわせほくせん行なひ
山やあらわせほくせん行なひ
山やあらわせほくせん行なひ

ひくへ國もかくまう うくるうみ 耳れ
落すまゆれや ぬきのまく ほ
うみく くに うみく お衣い 鶴之
引算とめりか 隊の あんと 早久
うみくへまく ねくまく お半船 竜隊
十六の東のうそしや まのの は 命下
舩はまく お車とみ日 例選
海はくまく お車とみ日 例選 両相

生地 短哥作

枝中

タヒタヒキマヤ 时ふの 除下地
山吹 うわく 朝に 仰説 里ふ
いほく あく お見せの ほんの まく て お
御名 て まく て やわら上ち 御葉
ウ お化 うい うく 月の 針仕 す お
跡 まく つら 今 次 番立

ト高よしりあらゆるあくやう

松風

脉くくまもんもんもん

脣之

いほのふかねむれあくやう

芳水

とくねきの膳をすこしに
おぬくよこいの里を

西行

そくの管はれ

送松

み年をまのまくとよきわがよろ

み

旅かづけをうそた

ナ

はてす草あすかすよめく

紫

強姦へりすよまのねぐ

之

おほの後とよとよすら

立

桜のあまはよくねむらしき

水

一月はとて月よむ一一一

日本書院

おはなはくまほくまほくまほく

水

ひまほくまほくまほくまほく

水

とよじよめんめくらむあは牛
徳ととびよ門の 直代 良

器録

玉手羽子板 あわせ玉
玉手羽子板 あわせ玉
玉手羽子板 あわせ玉
玉手羽子板 あわせ玉

泊 短まり

玉手羽子板 あわせ玉

羽子板 あわせ玉

羽子板 あわせ玉

や

都

暮不もきゆうか月のわき 五條
内事にそくもとひのゑと 曾上
かほよとて 真玉 まことれ 鶴羽
さくわらふとくは法後 周路
今すと待へふ峰のちりを 濁水
船仁合とかくと 五舟 まは
もの碎ひてよきと船あらへ 作丁
いひ船のねよいまづれ 河津

轍せとひるまづれの事と
れよとく 何よやひす す
まよの入道もまよあらる
心のけよ大ユ や森りや 今
川のせよかくよ御車 大太
夕日も月夜もくじへ口すく曾
の意に木の勢ひそくゆ

軽なもよし食者の下へうれ
があると名のきよみくらべ
町並とまよわてものあひをせ
涼の隣よ ねむるやく 丁

名録

えゐのれにほひ まつこすま

江守

ぬるりと風もほむりか むよ 五様
タ前や後後ちとてありそく 周路
よひりる船ひそやふのと 魔六
いのまのらむいふく わの月 玉村
十ちぬや 程かとみそく 一 舟丁
泊あくまよや たづるあひ 鳥弓
大船川 里和や 駒のさきからせ 河原
掛舟 うきふね うきふね 駒の水綱川 產絹

行すと同宿へうへまをあゆみ渭水
まのじと焼砂よもぎるあらひ洗耳
宿泊よ宿のじゆくわきまみ胡江
十月の十店ねそやねのじ楚且
ヒ姫のよみれはくやくにり海羽
おもやねの化粧しよまのふ共抱

越後 短竈行

13 王のさと宿泊す大松川

九解

御あそびゆきゆきと宿ゆくお里れ
市つめいはよくわくえ
旅の本のこころを月の新毫陽
者へ浦へあがくまうト荒

れましるれましむる事と云義方

著る事の仕事も人間どもまふ事

様のふへあらへまふる事と葉千

始末の経て猪も鹿の事文章

ノゾテモノロソノサシナリ字

ヒヨシヒヨシヒヨシヒヨシヒヨシ

おののきは猪よ、まろか深下

まほほほす御の新草

草

シヨシシヨシシヨシシヨシシヨシ

勤厚のうふくわがもしもまか林好

堅隣しやまし竹の子

月へやくやれれあうり喰もく

ひよに瘦てまくふのふ袋

はて細々波音の煙園子

今やうにまくらの道を

弱体よ鳥のうら印サカケテ

てのうづくまくまくまくまくまく

ひよこのわくへりもの中
山のまぐのやまかくは
17
筑

名錄

まへやまへと仕立て 美女女房 池
九轉
風の くわくわく
一 三 即
萬葉
振 ひる 風
舞 まぶ いふ
彷 萍 ほら

一時ある色にてやうやくまことに
頃ほどのまゝりやまゝりをひし
柔のじやうせんじゆもつかふ
従事二度のあくねあくね
筆はくと山の月 文章

諸國遠近 文通部

洛陽

叶里よ女のよゑあく菊のむ 吾仲
連翹しすゞしすゞいと以よ久 乾字
飯しらすねうる菊れりれふ山只
孤知てあく女かの月えふまひ

一例

近江

三日

四日

まく床のあけらのきやこれ月

腰本西堂

わらやうくゆうのり朱ふ昌房

大は亨治

十二月のうきにあられ種ふ

亨治

翁入へばのロヨリ ねのあ因へ

但馬

一翁もそよぎやまく見 仙翁
そのよれよれに候やま未曉時 未仲

石見

汝のまにてはやまく。おとす。大田
かわらへまよてゆる。田舎ま。和風
棕籠よ。有りかき。度む。考え

併勢

夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。
夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。
夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。
夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。
夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。
夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。夕涼レ。

山日

雁の音平野に。さう。つむ。高被
御。高被。高被。高被。高被。高被。高被。
一そく。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。岱山
かわらしの。かわらしの。かわらしの。かわらしの。かわらしの。かわらしの。かわらしの。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。滑御
そらしきの。そらしきの。そらしきの。仙行
ねれ。ねれ。ねれ。ねれ。ねれ。ねれ。ねれ。氣角
ゑは。ゑは。ゑは。ゑは。ゑは。ゑは。ゑは。ゑは。

松文

そよそよと音をひこてうめまふ

里

風下ともあわせむけに夫ち

秀重

尾経

名月やみのゆのいき

巴経

まよ後を一筋せはくまとい
三徑
せのふよよゆのれや清園扇丁牧
候よく鋸へほりか
れのも巴羅

雪あつてすぢ月ねの旅情を
算前
へう一にてまふまもむま
か之
かりよそと大徳ノ冥猪の夢
比近
おまよよ船の便をやねあまい
夏士

春濃

車前やまでアキシク坐すの育

角足

津れのむ不ぞくまの月

涼之

まやみよそと藤の枝

伯和

あらひのりと人りてよきわねのまろ 猪角
うほも合せひるの 水 うか 薩河
生板よ行すよみのまろ 宮川
さうのむらや林原よみの川 佐支
山宮すよとよまろ 三 本詠
えの月のひきじうきく 申嘆
苗代すねによまろ 合之
まかはまほと歌く 佐助 1210

人之間まくはよや林のまろ 游喜
そぞくへやよと脱ぬくもの川 三位
津川や見ゆるくはつれ 錦水
う舟の船、まかや望むけく 文喜
三月のまくは山かく めぬ雨 仰昔
春を合ひてよしぞかる四月の川 東李
みゆや満すほきく月のねり 皓火

蒙古の無事は
松づれい
浦作

趣後

新宿

蒙古の事は
松づれい
浦作
新宿
趣後
馬の吹ふる音もまへ
かまくの音が吹ふる音もまへ
かまくの音が吹ふる音もまへ^一
かまくの音が吹ふる音もまへ^二
かまくの音が吹ふる音もまへ^三
かまくの音が吹ふる音もまへ^四
かまくの音が吹ふる音もまへ^五
かまくの音が吹ふる音もまへ^六
かまくの音が吹ふる音もまへ^七
かまくの音が吹ふる音もまへ^八
かまくの音が吹ふる音もまへ^九
かまくの音が吹ふる音もまへ^十
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{二十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{三十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{四十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{五十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{六十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{七十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{八十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十一}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十二}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十三}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十四}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十五}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十六}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十七}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十八}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{九十九}
かまくの音が吹ふる音もまへ^{一百}

やれどや出来て月を山演

七羽

新宿

麻の葉の筆にさすや猫の毫
絵の絵とくまの筆にさす
よかひくちてゆふや河豚汁
あらえいもゆ浦とくまの筆
うしとくまの筆とくまの筆
や林の葉只白

蒙古の事あらねむ三日

十和

文通無部

如林の塔を城やう。一木
さまれて、初々と故のとより
町へまつね。吹き。懺え
絶半角せり。まつ。水急く
す竹よ。まとも。おきや。こみ山
火足

血江村

丸角

譲送表慶

除は

伊勢西市

玉之

越前金守

江西

遠慶留宿

火足

本名のほわうあくや席れゆ
ねす

義慶留宿

同神戸

李子仙

同新加納

迦葉

同三福

櫻川

同薦月

袖月

同

水也

同僧

湖毎

信慶義慶

未格

まの肺ホトトギスをもたらすと
遊魚ウオ

在岸アシマツ

まの牛ウシの死マミの風カキが滅ムリ

越水エツミ

むの山ヤマに山ヤマの躰ヒメの洞マダラ

同ドウ

ゆは狹ヒカルや急ハヤシけ搞ハサフ正マサニ

同ドウ

ゆゆるるの音ヨコや夜ヨク梅メイ

同ドウ

夕ハタケや仰ハタケよまのれ

同ドウ

せよほそよそくの聲ヨコま

尾テ馬マ六ロク

たまよ月タマヨの歌ウタや流フミ星ヒル

同ドウ

大タマ月タマの歌ウタや流フミ星ヒル

同ドウ

山体ヤマタケを見ミて山ヤマを聞ヒく

越後高田エチゴタカタ

山ヤマへ音ヨコのあハと寢スル山ヤマの山ヤマ

同ドウ江津エツジ

秋アキのみのりアキと見ミて山ヤマを聞ヒく

山隠ヤマツキ

山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ

同ドウ金匱キンケ

享保キョウボウ庚申キレモン夜ヨコ日ヒ

春耳カミコリ

山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ

同ドウ山隠ヤマツキ

山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ

同ドウ山隠ヤマツキ

京キョウ三サン年ニ

檣マストに山ヤマの山ヤマ

同ドウ山隠ヤマツキ

排ハタハタ下シタ

三サン路ル

帰宿

何尾亭軒主

弱の雨と朝てや蓑笠下にじゆ一汁 章平

うみのれいもくらむ旅宿 室紅

ひやうと化粧へひて日さゆて 白狂

浪華書林前川文榮堂藏版書目

河内屋源七郎

女中庸鴻臚箱

女服方第一の書

全一冊

大學小解

黙坐ノ木音

公開

此本は見原先生著、安達氏ももて
被書ふりて古今の事例もと解説す
やうに、遂たまがる大学とよき書を以て従事
ねつゝ心探のうつかりて解説と更ば考證
かく解て質女のひの語とならざり五とひの解を

大成無双節用集

半紙本

新板

大冊全一冊

算法統古車

增補第三、全一冊

大冊本即用書ふれまじてひまがつひほ字
の序と所詮ハ此節用之我うめどよ此活状を以
て上手に考究する者文本終生を武運教浮
名寄の後紀四段本の活版は使ひ得云事の良矣
中古墨を外す家は用ひてもあひも一とす
のせひとせばよきの名をもひまう

女徒然錦文庫

二本全一冊

孫術萬寶全書

金言

字林長子 唐津先生著

はまゝ今も又風のひからでちづくらん。まふまもとえれども
かくはいふりありてよけ。擣ればかに心事也のれをそくす
擣かばぬ。魚のれを生む。かくもまき。酒がる油のれを
くす。まつまか程くろ。のれをひじのむ。まつややの
まつやや。そよと音とほ。孤煙ひぼうとくのほ。まつとゆことま
わこと。湯うみの波を。おだに舟をとま。かのあわねの
あわねと。かのじの神木のれを。はなをとまし。かのの土

日本水土考

寸海年一冊

全二冊

水 十
解
卷
解毒圖全二冊
唐山よりして傳トシテ
日本小の度故モビニ日本
もくかへて考へて日本の人
東都に醫師の祖三を傳
至る所也、之つて今大路
の傳と云ふ。此は日本
の傳と云ふ。此は日本
の傳と云ふ。

網鑑易知錄

考槃餘事 源東漢後全四冊
此書唐歷世重古法北學之法範，一脉相承至研
考之多得其要歸統於案後御之，一切均以今之爲主。
其要或爲偏精粗，或爲漏，或爲細也。沃得脩善而之
以考之，每以是爲實。案之鑒之，又以家學之用爲母子。不
可謂之妄也。是爲考槃餘事。深田香實先生著全二冊

笠翁注李杜絕句 劉元高校閱 全二冊

同二編右系編，清之言全二冊
茶話旨因集鵝巢子著全一冊

題畫詩選

歌學集腋見田尚之著全四冊

同詩冊 森川竹窓先生著 全二冊

せぬに至るのをうづみと號して和歌の純開拓者
の用ひる御手本の摺り拂ひ様の如きをいふ事
ゆゑ人のたゞよしと云ふ事であるが總ての病
の一つづれとれし所と云ふ事と詮解されど書
方のものとあるに至らざまう。

俳諧季寄たる袋

全一小冊

見附解初からトシモ多き事ある事とぞ
有事あり便りに事あらず四季同様本多歌
士肩の美名多き筆運才氣更起て之を文俳
格式は英句は和歌句の用語も外極詠作故
實とおと城ふ仰解多句單作うれめ事

俳諧名所此致向集

中本
金四冊

色真其角をくわあらはの名をかすむ句
を集ひ六す扇州園合ひ三す神社拂害
山川浦浦く名木名石も刻み
室の名前を絶句を取ひて作成の一助感

相法秘受解

南翁著行と本
全五冊

印本ハ面の相手の筋の體の相手と妻
地と三圖画を加へ相のえす極秘解と解
説等を記す

小兒醫療手引草

全三冊

五君著解書多き外諸病症の解方並
手の筋の見手一法燈の仕事とくじく解
書等の之候達者を育る教るとくじく解
平とくじくて俗も二重點と手と肩の筋と
拳と掌と手と肩筋と用ひハラとして過

井田蜀說

肥後醫學高壽著

全三冊

本朝算鑑

安永先生著全三冊

相馬刻田端の諸法より差が半す五方商功
始輪盈胸方於所我立しノ際署互約
始約遍給自約刺一枚額當三重額及
小口の通事等の事例と判かるとそ詔書
と九つの教へうつりあひふもアラバ解
きして某御通を乞ふくまう

發行

同二丁目

山城屋佐兵衛

須原屋新兵衛

岡田屋嘉

七

和泉屋吉兵衛

七

同芝神明前

兩國横山町壹丁目出雲寺萬治郎

同淺草茅町二丁目須原屋伊

八

大坂心齋橋通北久寶寺町河内屋源七郎板

書肆

